

滋賀県道路整備アクションプログラム  
地域別アクションプログラム（大津地域）第2回地域ワーキング

議 事 概 要

日 時：令和4年9月21日（水） 14時00分～16時00分

場 所：滋賀県危機管理センター1階大会議室

出席者：青山 知子 委員（大津交通安全協会 女性部長）  
大森 睦浩 委員（大津北警察署 交通課長）  
小川 圭一 委員（立命館大学工学部環境都市工学科 教授）  
鬼塚 泰二 委員（大津市建設部 道路建設課長）  
後藤 佳子 委員（大津市地域女性団体連合会 副会長）  
佐藤 祐子 委員（公益社団法人びわこビジターズビューロー 副会長）  
須山 進 委員（大津商工会議所 観光運輸部会）  
高岡 裕子 委員（大津警察署 交通第一課長）  
竹平 陽 委員（公募委員）  
西 耕一朗 委員（公募委員）  
横田 久美子 委員（大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹）

（五十音順）

1. 開会

2. 委員紹介

3. 地域ワーキング

- （1）地域の声（案）について
- （2）地域の重点項目（案）について

○各委員からの主な意見等については以下のとおりである。

- ・ 前回のアクションプログラムには自転車のことが入っていなかったもので、この項目が入ったことはすごく進歩だと思う。ただ、歩行者や自転車の安全はもちろんだが、自動車を運転する側の要素も盛り込んでほしい。また、“安全”だけでなく、“安心”も取り入れてほしい。
- ・ 前回のアクションプログラムでは「誰もが」という言葉を使っている。「誰もが」とすれば自動車を運転する側も含まれるのではないか。
- ・ 国道422号は主要幹線道路だが、道路幅が狭く、渋滞しているため、避難路として利用が困難である。道路を拡幅するなど、スムーズに走れるようにしてもらいたい。
- ・ 大津市内は新しい道をつくることは困難だと思う。緊急車両がきても進路を譲らないドライバーを見かけるので、お金をかけて道路整備するだけでなく、講習会での啓発などド

ライバーのマナー向上についても意見を入れてもらいたい。モラルが低下していることが一番の問題点ではないか。

- ・ 大津市のまちづくりは、今後どう改善していくかという点はあるが、既に完成形に近い。“まちづくりと一体となった”という表現は時すでに遅し感がある。危機感とスピード感を持った表現にしてもらいたい
- ・ 幹線道路の渋滞は、道路整備は進めてもらっているが、まだまだ緩和されていない。お金をかけてやるべきかどうかも含め検証していく必要がある。
- ・ 高齢化が非常に進んでいるので、高齢者が安心して動ける道路を整備してもらいたい。車移動が主となっているが、10～15年後に運転ができるか、運転ができなかった場合にそれに代わる公共交通があるのか不安がある。高齢者を優先するわけではないが、高齢者が動きやすくなる道路の整備をお願いしたい。
- ・ ビワイチは大変良いことだと思うが、高層マンションが壁となっていて琵琶湖になかなか近づけない。琵琶湖からの風を感じてもらえるよう、琵琶湖の上を自転車を通れる道があると良いと思う。
- ・ 雨の日に運転しているとライトで反射して車線が見えないことがある。それで車線をはみ出してしまうこともあって危ない。何か対策がないかと思う。
- ・ 雨の日は光が乱反射するために区画線が見えにくくなってしまう。リブ付きの区画線もあるが、騒音や振動の原因にもなるため慎重に検討する必要がある。
- ・ 維持管理的なことも関わってくるが、白線を削って引き直しをしている箇所、削ったところに雨水が溜まって線があるように見えることもある。維持管理に気を付けてもらいたい。
- ・ 生活道路、特に通学路は、通学する時間帯が限られるので、時間指定をした交通規制などを考えてもらいたい。通過車両の生活道路への進入防止も含め、子どもたちの登校時間帯の生活道路は走りにくいと感じてもらえたら有効だと思う。
- ・ 学校周辺の道路など、冠水しないような対策をとってもらいたい。また、雨が降ると保護者が車で迎えに来ることもあるが、その送迎車両で渋滞してしまう。
- ・ 大規模な住宅開発により居住者が増えると、そこには子どもたちもいるので通学児童数が増え、通学路の確保や安全対策も必要になる。そういうこともわかったうえで、開発を行うべきである。
- ・ 瀬田川渡河部の渋滞対策が必要だと思う。
- ・ 幹線道路の事故件数、歩行者や自転車に関連する事故件数なども評価指標として検討してはどうか。
- ・ 信号機は安全というイメージがあるが、災害には弱い。大規模停電や地震で信号機が消えたり倒壊することもある。災害時に強いラウンドアバウト、環状交差点などの物理的な整備も必要だと思う。
- ・ 道路整備と併せて、信号調整により渋滞緩和や抜け道抑制を行っている。(大森委員)
- ・ 最近はキックボードなども増えてきている。また、自動車も自動運転の開発が進んでいる。今ある乗り物以外の乗り物が出てくる可能性があるので、道路環境整備にも関係してくると思う。

- 地域の重点項目が4つ挙げられているが、点数がばらけてしまうのではないか。最も重要な項目にしぼるということも戦略的に必要ではないか。
- 点数がばらけるという意見に賛成。地域の声や重点項目に示されている内容は、これまで何年にも亘って挙がってきており、様々な対策を行っているなかで少しずつは良くなっているのかもしれないが、まだまだ問題解決できていない部分がある。そういった皆が認識している内容を重点項目としてあげ、必要性を示す必要があるのでは。県でも「滋賀リズム」のキャッチコピーのもと、様々な人のリズムを共有しながら変えていこうという動きがあり、我々もそういったリズム感をもって変えていけたら良いと思う。もう少し意気込みや危機感が伝わるような表現で示すことができればと思う。
- 総花的に設定するのではなくて、大事な何かを実現することを優先するという考え方がある。項目をどう設定するか、点数をどう配分するかも検討する必要がある。特に重視したい点は何か、並列に並べるのではなくて、渋滞緩和をして大津市のまちづくりと一体化させるなど、項目4は項目1～3と合体させても良いのではないか。

以上